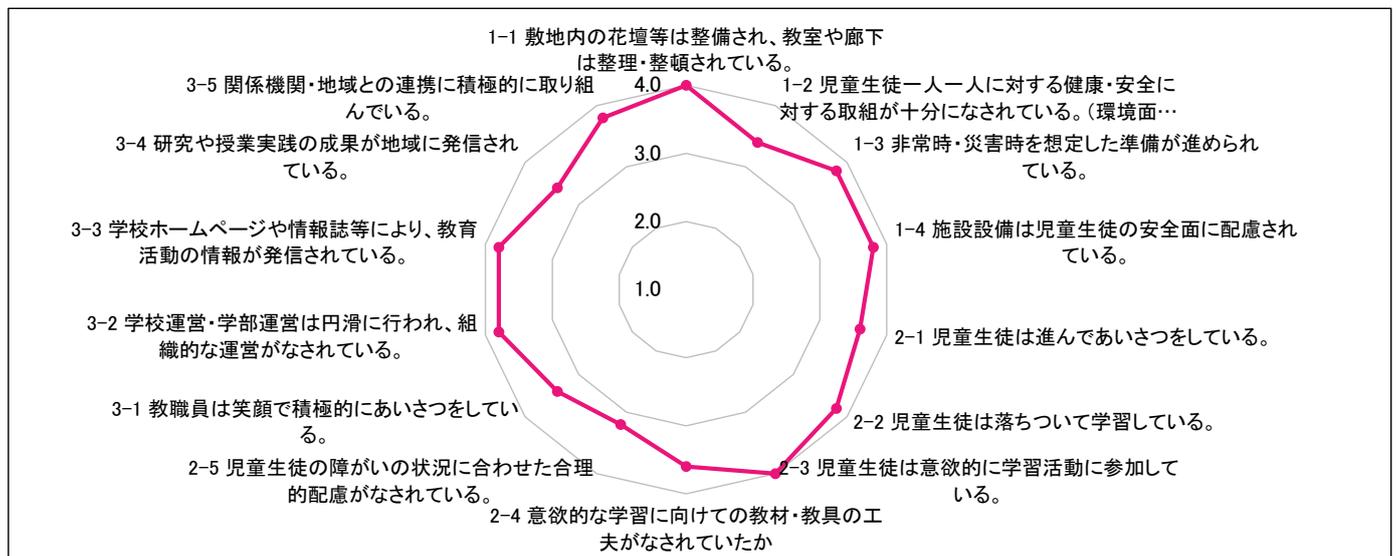


# 令和7年度 第2回学校評価に関するアンケート【学校評議員】

◆実施期間 令和7年12月5日  
 ◆回収率 100%(5名)

令和7年12月10日  
 大分大学教育学部附属特別支援学校

項目		7月平均	12月平均	評価割合			
				大変よい、大いにそう思う	よい、そう思う	概ねよい、思う	改善の必要がある、思わない
1 学校の 環境・ 安全	1-1 敷地内の花壇等は整備され、教室や廊下は整理・整頓されている。	4.0	4.0	7月 60%	40%	12月 100%	
	1-2 児童生徒一人一人に対する健康・安全に対する取組が十分に なされている。(環境面や経営計画での取り組み等)	3.8	3.4	80%	20%	40%	60%
	1-3 非常時・災害時を想定した準備が進められている。	3.5	3.8	80%	20%	80%	20%
	1-4 施設設備は児童生徒の安全面に配慮されている。	3.3	3.8	50%	75%	100%	25%
2 児童生 徒・授 業等	2-1 児童生徒は進んであいさつをしている。	3.7	3.6	60%	40%	60%	40%
	2-2 児童生徒は落ちついて学習している。	3.8	3.8	100%		80%	20%
	2-3 児童生徒は意欲的に学習活動に参加している。	3.8	4.0	100%		100%	
	2-4 意欲的な学習に向けての教材・教具の工夫がなされていたか	3.8	3.6	80%	20%	60%	40%
	2-5 児童生徒の障がいの状況に合わせた合理的配慮がなされて いる。	4.0	3.2	80%	20%	40%	40%
3 教職員・ 学校体 制	3-1 教職員は笑顔で積極的にあいさつをしている。	3.5	3.4	40%	60%	40%	60%
	3-2 学校運営・学部運営は円滑に行われ、組織的な運営がなされ ている。	3.5	3.8	80%	20%	80%	20%
	3-3 学校ホームページや情報誌等により、教育活動の情報が発信 されている。	3.5	3.8	60%	40%	80%	20%
	3-4 研究や授業実践の成果が地域に発信されている。	3.3	3.4	40%	60%	40%	60%
	3-5 関係機関・地域との連携に積極的に取り組んでいる。	3.5	3.8	60%	40%	80%	20%



## ◆各項目のコメント、お気づきの点

【2-5 合理的配慮】小学部で個々の児童の特性理解に基づく配慮(対応の方法)に改善の余地があるように思いました。

### 【お気づきの点】

- ・発達障がい児の一般的な特性として、ワーキングメモリが弱いということがあります。小学部の授業で口頭で複数の事項を伝達し記憶させる場面があり、それに対応できる児童もいれば、何度やっても上手くいかない児童もいました。後者の場合は、児童の特性が大きく影響していると思われ、繰り返し同じことをやっても課題はクリアできないと考えられます。学習や訓練では克服できない課題はそれを補う方法を示し支援を使いこなすことも学習させる必要があると思います。
- ・今後一人一人の実態を重視した指導支援を重視していただきたいと思います。
- ・教育及び研究機関としての責務を認識し、生徒の支援と教育者としての人材育成が実践されていたと思います。特に高等部の学習は生徒が主体的に活躍できる授業が実践されていたと思います。

## ◆学校より

・貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。  
 このアンケート結果といただいたご意見をすぐに全校で共有しました。  
 また、1月8日に服務規律研修を実施し、各教員が ①丁寧な言葉づかい、②年齢相応の対応 ③障がい特性を理解した指導支援 を常に心がけていくことを確認し、3学期をスタートさせています。